

第371号 (平成31年1月9日(水)発行)

発行所  
京都女子大学 宗教部  
京都市東山区今熊野北日吉町35  
電話 075 (531) 7074

# 華利陀茶

本師源空世にいでて  
弘願の一乗ひろめつつ  
日本一州ことごとく  
浄土の機縁あらはれぬ

〔高僧和讃〕源空聖人  
第一首



## 彼氏は菩薩さま？

文学部教授 森田真円

### 恵信尼さまの手紙

新年明けましておめでとございます。みなさんそれぞれに、家族や友人(彼氏とも)と楽しいお正月を過ごされたことでしょうか。とはいっても、学校が始まり、学年末の試験も近づき、お正月気分も抜けて、いよいよ新しい年が始まっています。

ところで親鸞さまは、当時としては大変珍しく、堂々と家族を持たれたお坊さまでありました。妻の恵信尼さまは親鸞さまより九歳年下で、お二人には男女六人のお子たちがおられました。その中で、一番末娘の覚信尼さまが、親鸞さまの晩年のお世話をされたよう

で、弘長二年の十一月二十八日(新暦一六三三年一月十六日)に親鸞さまが往生された際も、付きつきりて最期を看取られたようです。親鸞さまが往生された後、覚信尼さまはお弟子数人と共に、十一月二十九日に葬儀を営んで東山鳥辺野で茶毘に付し、三十日に遺骨を同じく鳥辺野の北大谷の地に埋葬されました。

そして、十二月一日に、当時越後にお出でになった親鸞さまが語られていた夢の話が語られてい

ます。それはかつて親鸞さまと一緒に関東にお出でになった頃、常陸国の下妻の「さかいの郷」(現在の茨城県下妻市坂井か?)にお出でになった時に見られた夢であったと記されています。その夢の中で、恵信尼さまは、あるお寺の落慶法要にお参りをされますが、そのお寺の御堂の前に、鳥居のようなものに二体の大きな仏さまの絵像が掛かっていた。

夢の中で、恵信尼さまは一体の仏さまに近づかれるのですが、その仏さまはもの凄く光輝いておられ、眩しくてそのお顔やお姿を見極めることができません。恵信尼さまは「この仏さまは何という仏さまでしょうか?」とお尋ねになったところ、どなたかが「この光ばかりで輝いている仏さまは勢至菩薩さまですよ。実は法然聖人は、この勢至菩薩さまの生まれ変わりの方です」と仰ったのでした。

恵信尼さまは、「そのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

た親鸞さまの妻の恵信尼さまに手紙を出されて、親鸞さまが往生されたこととお知らせになりました。知らせを受けられた恵信尼さまは、そのお返事の手紙の冒頭で、親鸞さまがお浄土に往生されたことは間違いないと仰った上で、親鸞さまの想い出を娘の覚信尼さまに語られるのです。

それは、若かりし親鸞さまが、自らの生死の解決に悩まれて、六角堂に百日間籠もられ、九十五日目の暁に聖徳太子の夢をご覧になったことから始まり、その夢をきっかけとして、生涯の師匠となつた法然聖人のところに通われたことなど、親鸞さまから直接お聞きになった出来事が生き生きと記されています。これらは、親鸞さまを語る際には、しばしば紹介される大変よく知られた内容ですが、娘の覚信尼さまに、貴女の父上はこのような方であったということと話をしておきたいという恵信尼さまの強い思いが伝わってきます。

恵信尼さまは、「そのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

ださい」と覚信尼さまに語りかけています。貴女もそのように心で得てく

は、親鸞さまの伝記である『御伝鈔』には、「行者宿報偈」として記されています。それは、六角堂の本尊である観音菩薩が夢の中に現れて、「この観音が行者(親鸞さま)の妻となつて一生涯支え、臨終には西方浄土に導く」というものでした。

この『御伝鈔』の記述通りであるとすると、親鸞さまも恵信尼さまを観音菩薩の生まれ変わりと

思っておられたこととなり、お二人もお互いのことを菩薩さまの生まれ変わりと仰ら

れたので、誰にも仰らなかつたのですが、親鸞さまにはその夢の話をされたのでした。ただし、

夢の中の始めの半分だけ、つまり法然聖人が勢至菩薩の生まれ変わりだという部分だけをお話されたのです。

日本は世界でも有数の長寿国です。その理由の一つに、日本は世界で最も健診制度が充実していることが挙げられます。私たちのほとんどは毎年何らかの健診を受けています。健診を受診することは個人の自由と思

っている人も多いようですが、受診の義務が法律で定められている健診もありま

す(法定健診)。例えば、児童、生徒、学生では「学校保健安全法」、社会人では「労働安全衛生法」、特定健康診査(特定健診)では「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づいて、学校、会社、医療

保険者などが、その組織に所属する人に健診を受けさせる義務があり、検査項目も法令で決められています。一方、海外では法律で健診を義務付けている国はまだ少ない

が、親鸞さまの伝記である『御伝鈔』には、「行者宿報偈」として記されています。それは、六角堂の本尊である観音菩薩が夢の中に現れて、「この観音が行者(親鸞さま)の妻となつて一生涯支え、臨終には西方浄土に導く」というものでした。

## 食物栄養学科からの便り

### ⑦ 健診受診のすすめ

症状ですが、放置すると動脈硬化が進行し、心臓病、脳卒中などの命を脅かす疾患につながります。そのため、健診を受けて早期にこれらの疾患を発見し、適切な治療や生活習慣の改善を行うことが必要です。

日本は健診制度だけでなく、その後の事後指導制度まで法律で定められている国は世界中に例がなく、日本が世界に自信をもってアピールできる予防医療制度の一つです。

さらに、日本独自の健診システムとして「人間ドック」があり、通常の健診よりもさらに詳細な全身のチェックと事後指導及びフォローが行われます。人間ドックは、人生という航海において、船が時々ドックに入って点検を受けることに例えて、マスコミにより作られた造語ですが、台風(typhoon)や津波(tsunami)と同様、ningen dockは国際語になっています。

このように、とても充実している日本の健診制度ですが、乳がんや子宮がんなど一部のがん検診は、欧米に比べて受診率が少ないことが指摘されています。健診制度を有効に利用していただき、病気の早期発見や治療に結び付け、健康寿命を延ばしていただくことを願っています。

〔富協 尚志〕

〔普〕

### 標

いよいよ二〇一九年のスタートである。昨年は自然災害も多く、スーパーボランティアの活躍が話題となった。鷲田清一氏はその著書『老いの空白』の中で、人が介助ボランティアに出て行くことについて、次のように述べている。「介助ボランティアに出かけていくのは(中略)じぶんたちより「できない」ひとの前で、「できる」ことにこだわって突っ込んだ生き方をしてきた頑ななじぶんをほどこし「世話をすべし」世話をされる一方通行の関係を超えるような地平のなかにじぶんを放り込もうとおもうからだろう。(中略)じぶんのなかの「弱さ」と「唇を噛みしめるのではなく、もつと素直に向きあえるようになるからだろう」と。

私たちは日常の中で、自分の弱さにそもそも目を向けようと思いません。自分の弱さを認めれば、厳しい生存競争から脱落してしまうのではないかと、という恐怖感があるからなにかも知れない。内面の弱さを抑圧して自分を奮い立たせようとしているようにも見える。もし内面の弱さが露呈した時にはどう対処するのだろうか。自分の存在そのものが否定されることにはならないのだろうか。

そもそも自分の弱さを認めることが自己を否定することになるのだろうか。自分の弱さを認めることは、むしろ強く生きていくためには必要ではなからうか。阿弥陀仏の教えを通して、弱さ、醜さをそのまま受け入れていかれた親鸞聖人の姿を見れば明かなことのように思う。



# 私たちにできること

## 発達教育学部教授 内海 成 治

私は国際協力という分野で仕事をしてきた。はじめは国際協力事業団(現国際協力機構)の専門員として、その後大学の教員として働いてきた。専門は開発途上国の教育開発を支援する国際教育協力論と言う領域である。さまざまな国や地域で実践と研究を行ってきた。途上国での仕事は楽ではないが、心を激しく動かされることも多い。そうした経験は、私の思いを大きく変えることもあった。その中でも、中米のグアテマラでの思い出は今も心に残っている。

市が見えてくる。街の中央に飛行場があり機体はビルを掠めるように着陸する。グアテマラの首都グアテマラ市である。海拔1500メートルの高原都市である。グアテマラの面積は11万平方キロ弱で人口は1658万人(2016年)である。また、多くの火山と湖に恵まれた美しい国である。グアテマラの特徴は人口の半分が先住民のマヤ系の人々ということである。

私がグアテマラに行くことになったのは、先住民の子どもの教育が不十分で、特に女の子の教育水準が低いということ。グアテマラの中央部は南北にシエラ・マドレ山脈が聳え、最高峰は4000メートルを越える。山々に囲まれるようにしてマヤの人々が暮らしている。トトニカ

パンはグアテマラ市の西150キロメートルのところにある。グアテマラは珈琲の産地として有名だが、果物も豊富でトトニカパンはりんごの産地としてよく知られている。トトニカパンの小学校を訪ね校長や教員にインタビューを行い、授業を録画して分析した。また家庭訪問も行いマヤの暮らし、特に子どもの生活を知ろうとした。

私たちの結論はアメリカ側の分析とは異なり、女の子の未就学や学力不振は彼女らの生活に起因するということであった。まず、教員の意識には男女の生徒に対する期待の差は見られなかった。グアテマラの小学校には女性教員も多く、女子に対する教育の必要性

に高い意識を持っていた。しかし、女の子は男の子に比べてスペイン語能力に大きな差があり、特に文法やスペリングの能力はかなり劣っていた。グアテマラの子どもは、男子と女子の役割分担がはっきりしており、女の子は家の中で母親と共に過ごす時間が多。マヤの母親はほとんど教育を受けていないためマヤ語(ここではトトニカパン語)を話している。そのため女の子はスペイン語に触れることが少ないのである。また、小学校の施設は女性用のトイレが整備されていないことや給食の設備が十分でなかった。

そのため日本側としては、無償資金協力による学校の整備、技術協力プロジェクトとして教員のマヤ語の研修、授業法の改善、親やコミュニティへの女子教育の大切さのアドボカシーなどを提案することにした。また、マヤ語の文字化の促進、マヤ語教材の開発などを行っている大学との協力も視野に入れる必要があった。こうした日本側の提案をアメリカ側と共同で実施することは大変であったが大筋で実施する運びとなった。

学校での長時間にわたる調査を終えて駐車場までの急な坂道を下るときに子どもたちが一緒に歩いてくる。なんだか楽しそうに笑いながら歩いている。ふと気がつく

背広のポケットが膨らんでいる。なんだろうと手を入れてみると、ピンポン球のような小さな林檎がたくさん入っている。彼女たちが私に気がつかないように歩きながらそっと入れてくれたプレゼントであった。私がリングに気がつくとき子どもたちはいっせいに笑いながら離れていくのである。私は手にあふれるばかりのたくさんの林檎を見て、胸が熱くなり、涙が出るのをこらえ切れなかった。子どもたちは私にできる限りのことをしてくれていたのである。彼女らは見返りを求めているのではない、彼女らができる最大のことを私にしてくれたのである。

小さいこともきれいな。しかし、人に喜んでもらえることをそっとすること。その小さな行いがどれほど人を感動させるものなのか。そしてその子らの行為は私の国際協力に対する考え方を大きく変えたのである。国際協力は物と物の関係ではなく、人と人の関係、心と心の触れ合いなのだ。私たちは世界の困難に対して何もできないかと思いがちだが、私たちにできることはたくさんある。その子どもたちをその困難さを感じることを、忘れないこともできることのひとつだと思ふ。そのことを教えてくれた小さな林檎は私にとっては大きな林檎なのである。

# 法のことば

本師源空世にいでて 弘願の一乗ひろめつつ 日本一州ことごとく 浄土の機縁あらはれぬ

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

七高僧の最後は、親鸞さまの師匠であった法然房源空聖人の子として生まれ、九歳の時、父が敵対していた明石源内に謀殺されますが、父の遺言に従い菩提寺勧覚のもとへ入寺されます。十三歳で比叡山に登って天台教学を学び、さらに南都にも遊学した後、一切経六千巻を五度にわたって通読し、「智慧第一の法然房」と称されますが、生死の迷いを解決する道を得ることができず、四十三歳の時、善導大師の『観経疏』の一文に出あって、阿彌陀仏の本願による専修念仏に帰し、比叡山を下りて東山吉水の草庵にて、男女貴賤道俗を問わず、誰もが平等に救われていく「弘願一乗」の教えを弘められます。これによって「日本一州ことごとく」浄土の教えを信受する機縁が起ったのです。

(森田 眞円)

(三浦 眞証)

『その悲しみに寄り添えたなら』 天野和公著 イースト・プレス 二〇一八年九月

臨床宗教師という言葉を知っていますか？ 臨床宗教師は、キリスト教のチャプレンをベースとしながら、日本独自の発展を遂げたもの。宗教的な勧誘はせず、医療・福祉などの施設で心のケアを求めている。寄り添う宗教者です。

本書は、著者が臨床宗教師になっていく姿を描いたマンガ。マンガですが、臨床宗教師のことを紹介した名著です。

著者が臨床宗教師になろうと思った切っ掛けは息子。ある朝、三歳の息子を起しに行ったら、動かさず話さず、目を開けた人形のようにベットの上面に座っていた。数日前に倒れた時に

脳にダメージを負っていたらしい。もう決して戻ることはない。 「助けて。助けて。この子はまだ三年しか生きていない。著者の叫びに涙を禁じ得なかった。 子供の幸せを描けず絶望の中にいる著者に、医師は「元氣になりますよ」と慰める。しかし、著者は孤独だった。言葉にすれば自分が壊れてしまうような叫びを心の中に閉じ込めて。でも誰かに聞いて欲しくて。「私はここにいます。そんな思いを抱えて孤独だった。 そんな時、恩師である東北大学の先生から、臨床宗教師研修の案内が来

た。「行く」。子供の縁が背中を押した。 著者は研修の中で様々なことを学んでいきます。「相手の価値観を否定しない」、「自分の価値観を押しつけない」。簡単なようでとても難しいことです。 ある時、著者が障害児支援に携わる女性と自分の子供の話を話した時「障害児を持つことはきつと意味があるんですよ」と言われたが、それが著者にとっていかに意味のない言葉であったかを感じたという。 人は自分なりの答えを相手に言いたくなりますが、それが果たして相手の寄り添うことになるのか。相手の思いを聞くことの難

しさを教えられると共に、私の普段の生活が思わされた。 皆さんは、友人や家族とどんな言葉を交わしていますか。ふと立ち止まって考えてみてください。相手に寄り添えているでしょうか？ 本書は臨床宗教師の本ですが、みんなに読んで欲しい。なぜなら、心の叫びを胸の中に押し殺している人は必ず周りにいるから。私たちは誰かと共に生きています。本書は「人」として生きる上で、大切なことを教えてくれます。ぜひ手に取って読んで下さい。

お知らせ

卒業生本願寺参拝 帰敬式(おかみそり)受式のお知らせ

卒業式を前に、み仏様の前で卒業の喜びと感謝の気持ちを報告申し上げる卒業生の本願寺参拝を実施致しますので、必ずご参拝ください。

また、参拝終了後、希望者を対象に帰敬式が執り行われます。

○卒業生本願寺参拝(全卒業回生)

日時 平成31年3月14日(木) 10:00~(9:30集合厳守)

場所 本願寺御影堂

○帰敬式・法名伝達のつどい(希望者のみ)

日時 平成31年3月14日(木) 参拝終了後~13時45分

場所 本願寺御影堂・京都東急ホテル

冥加金 1,000円(大学より2,000円の補助を受けています)

\*帰敬式とは、み仏の道を歩むことを誓う入門式としての儀式のことです、「おかみそり」とも言い、受式者には「法名」が与えられます。

\*受式後、法名伝達の集いが催されます。

\*京都東急ホテルにて、軽食(ケーキなど)を準備いたします。

\*出席された方には記念品をお渡しいたします。

◇受式希望者は平成31年1月9日(水)~3月7日(木)の期間中に、L校舎証明書発行機にて冥加金を納入し、出力された申込書を宗教教育センター(同3階)まで持参し手続きをしてください。

シリーズ 智慧の蔵 21